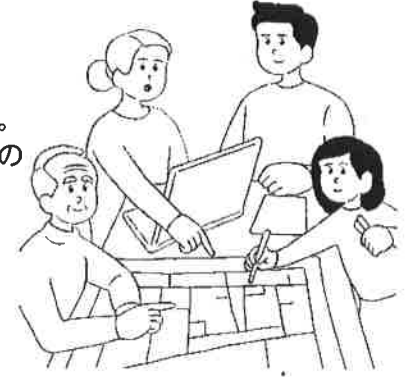




今やろう！4つの備え その4（コミュニケーションという備え）

☆ 家族会議を開こう

発災時の出火防止や出口の確保など、家族内の役割分担を決めておきます。
外出中に帰宅困難になったり、登下校中、離ればなれになったりしたときの
安否確認の方法や集合場所も決めましょう。
- さらに避難場所や避難経路、電気のブレーカーやガスの元栓の位置、
停止などの操作方法の確認も忘れずに。

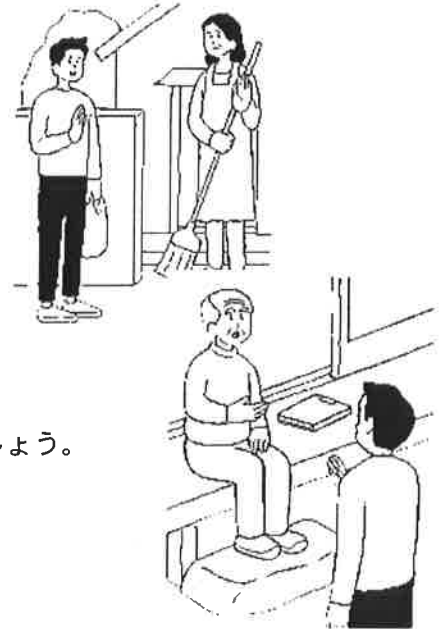


☆ 防災手帳を活用する

家族会議はもちろん、学校や近隣の方々と防災対策を話し合うために、
「四日市防災マップ」「四日市津波避難マップ」「四日市市家族防災手帳（大人版・子供版）」を活用しましょう。
話し合うことで防災意識が高まり、災害から身を守ることに繋がります。

☆ 防災ネットワーク

災害時には近隣の住民同士の協力が必要です。
避難生活をスムーズにするためにも、日頃から近隣の方々と
挨拶を交わしたり、自治会主催の防災避難訓練などに積極的に
参加することで、ご近所との付き合いの輪を広げておきましょう。



☆ 要援護者への配慮について

高齢者や障がい者、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人の方などの
避難などが迅速にできない立場にいる方の情報把握する。
常日頃から近所の状況を知るとともに、
災害時には自治会組織、民生委員児童委員の方などと協力して支援をしましょう。

☆ 防災避難訓練

訓練に参加すれば災害時も冷静な対処ができます。
災害時の被害を最小限に抑えるには、
自治会で行っている防災避難訓練に日頃から参加することが大切です。
避難訓練は自治会の防災訓練や、学校での防災教育さらには、地区と協同で行う場合もありますので
できるだけ参加してください。

☆ 救出・救助訓練とは

建物等の倒壊などによって逃げ遅れた人を、身近な器具を活用して
救出するための方法を身につけます。
あわせて、救助した人に対する応急手当のやり方についても学びます。

裏面につづく

回 覧								

防災ニュース「きらら」は単独で回覧をお願いします。

☆ 避難訓練とは

火災、地震、洪水などの災害時に、安全に避難するための訓練です。
避難するために必要な備えや避難方法を学びます。



☆ 応急救護訓練とは

緊急事態に適切な応急手当を行うには、
日頃から応急手当に関する知識と技術を学びます。
応急救護訓練では、いざというときのための応急手当の方法を学びます。



防災教育（講演会）

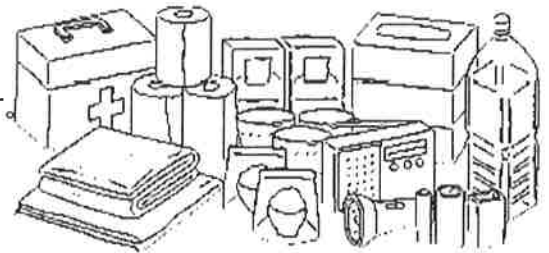
地震や火災などの災害時に、まずは自分の身を守り、
次に身近な人を助け、さらに地域貢献できるようになることを
覚えるのが防災教育であり、考え方・事例などを講演会で学びましょう。

地区住民の防災組織（自主防災組織）

自分たちの町を自ら守る。
近所の人たちが互いに協力し合い、自分たちの町は自分たちの力で守る
という地域の防災対策を効果的に行うための組織です。

自治会や組単位とした協議機関で、防災担当者などが中心となって
呼びかけ、地域の実情に合わせて組織を作り、活動します。

参加することによって、地域のコミュニティ力に向上につながります。



★ 防災資機材の備え

防災組織の活動のためには資機材を備えておく必要があります。
地域の実情により、どんな物が必要かを検討します。
保管・管理に当たっては、災害時に迅速に利用できるように整理しておきましょう。

（下記資機材は参考例です、地区に事情により必要資機材の準備をしてください）

- ヘルメット 非常用食品 スコップ ロープ メガホン バール 軍手
- 防水シート ジャッキ ハンマー はしご 消火器 タオル 担架
- 無線機（連絡手段用） 給水タンク など

◎ 防災おさらい

今回で、「今やろう！ 4つの備え その1から4」4か月にかけて掲載させていただきました。
過去4回の記載内容から、特に常日頃から心がけておくべき内容について質問形式で記載しましたので、家族の皆様で話し合ってください。

Q1 日常備蓄とは？

A1 日常利用している食料品や生活必需品を少し多めに購入しておく。

Q2 非常持ち出し袋はどこに置いておくのが良い？

A2 玄関の近くや寝室、車の中、物置などに配置しておけば、
家屋が倒壊しても持ち出すことができる。

Q3 地震による家具類の転倒によって起こる可能性がある二次災害は？

A3 家具類がストーブに転倒・落下・移動すると、
火災などを引き起こす危険があります。

Q4 家の中でケガを防ぐために、どんなチェック・対策をすればいい？

A4 家具・家電の転倒・落下・移動防止対策が必要です。

Q5 地震の揺れで倒壊してしまう可能性があるのはどんな建物？

A5 1981年5月31日以前に建てた家で、埋立地、低湿地、
造成地に建っている家。

Q6 地震後の出火や延焼を防ぐために備えておくべき物、注意すべきことは？

A6 住宅用消火器・火災警報器・漏電遮断器・感電ブレーカーの設置と、避難する場合はガスの元栓は閉め、電気のブレーカーは落とす。

